

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
①	基本的な生活習慣（「挨拶・掃除・身なり」と「早寝・早起き・朝ご飯」）、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒指導	日常的にさわやかな挨拶ができるように、朝の挨拶運動に力を入れる。	A 90%以上の生徒が挨拶できる。	生徒が自主的に挨拶をするように指導した。中間No.1	3.4	A 自分からすすんで挨拶をする。 B 時々自分から挨拶をする。 C 声をかけられれば挨拶をする。 D 挨拶をしない。	3.3	A 自分からすすんで挨拶をする。 B 時々自分から挨拶をする。 C 声をかけられれば挨拶をする。 D 挨拶をしない。	3.4	毎朝、登校時に職員による登校指導を実施した。また、生徒会執行部や部活動によるあいさつ運動を定期的実施した。	定着してきたので、次年度も続けていく。		
					B 70%以上の生徒が掃除できる。										
					C 50%以上の生徒が挨拶できる。										
					D 挨拶ができる生徒は50%未満である。										
			美化委員会	職員が模範となって清掃指導に取り組み、また、委員会による活発的な活動を促し、清掃に対する生徒の意識を高めていく。	A 90%以上の生徒が掃除ができた。	毎日の清掃指導を行った。中間No.2	3.7	A 自分からすすんで掃除をする。 B 決められたところだけは、掃除をする。 C 注意されると掃除をする。 D 掃除をしない。	2.3	A 自分からすすんで掃除をする。 B 時々自分から掃除をする。 C 言われると掃除をする。 D 掃除をしない。	2.5	A 自分からすすんで掃除をする。 B 決められたところだけは、掃除をする。 C 注意されると掃除をする。 D 掃除をしない。	3.2	全職員による清掃指導を徹底し、協働して取り組むことができた。 職員数が減り、職員一人一人の掃除区域の担当エリアが広がった。	次年度も継続して掃除の徹底を図りたい。次年度は工事がないうえ、適切な掃除区域の割り振りを検討し、校内美化に努めていく。
					B 70%以上の生徒が掃除ができた。										
					C 50%以上の生徒が掃除ができた。										
					D 掃除ができる生徒が50%未満であった。										
			生活委員会	全職員の共通理解のもと、登校指導中や朝の会、授業中など呼びかけを行い、身なりをきちんと整えるよう指導する。	A 90%以上の生徒がきちんとしている。	生徒の身なりの指導をした。中間No.3	3.6	A いつも自分できちんとしている。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	A いつも自分できちんとする。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	A いつも自分できちんとする。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	登校指導時や朝の会、授業に行ったときなどに常に気がついたときに服装の乱れなどを指導した。	指導に従わない生徒に対する個別指導のあり方を見直し、全職員の共通理解のもと、保護者と連携して指導に当たる。
					B 70%以上の生徒がきちんとしている。										
					C 50%以上の生徒がきちんとしている。										
					D きちんとしている生徒が50%未満である。										
		保健委員会	保健日より等で早寝・早起き運動を推進することにより、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.9	A 毎日、早寝早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.7	A 毎日、早寝早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.9	A 毎日、早寝早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.9	健康観察や保健室での様子から個別に健康指導を行った。また、保健委員会の取組として睡眠時間について調べ発表した。	次年度も継続して、アンケート調査・個別指導を行う。特に睡眠については、睡眠の大切さを伝えていく。	
				B 実施生徒が70%以上であった。											
				C 実施生徒が50%以上であった。											
				D 実施生徒が50%未満であった。											
		保健委員会	保健日より等で朝ご飯運動を推進することにより、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.9	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	健康観察や保健室の来室状況、アンケートなどから生徒の状況を把握し、状況に応じて保健指導を行った。	次年度も継続して、アンケート調査・個別指導を行う。	
				B 実施生徒が70%以上であった。											
				C 実施生徒が50%以上であった。											
				D 実施生徒が50%未満であった。											
学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	生徒指導	登校指導の声かけや全職員の意識を向上させ、また、生活委員が遅刻点検をするなど、生徒会活動と連携して、継続的に指導を行う。	A 90%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	時間（遅刻をしない・チャイム席・集合時間等）を守るように指導した。中間No.5	3.8	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	登校指導や始業時間の指導などを通して、職員が意識して声かけを行った。	できる限り早い時間に、より多くの職員が登校指導に参加できるようにする。		
			B 70%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。												
			C 50%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。												
			D 登校時間やチャイム席を守れた生徒が50%未満だった。												
	生活委員会・学習指導・学務委員会	各教科で宿題を出し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。	A 90%以上の生徒が宿題を行った。	家庭学習の習慣が身に付くように指導した。中間No.6	3.0	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.3	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.3	生徒の状況に応じて、適切な課題を設定し、提出させるなどして学習指導を行った。	家庭学習の意味を理解させ、習慣を定着させ、宿題の提出率を向上させる。		
			B 70%以上の生徒が宿題を行った。												
			C 50%以上の生徒が宿題を行った。												
			D 宿題を行えた生徒が50%未満であった。												
	生活委員会	学習道具を毎日持ち帰らせ、家庭学習への意識を高めるよう指導する。	A 90%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。	学習道具は毎日持ち帰らせるとともに、忘れ物をしないように指導した。中間No.7	2.8	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をする人が多い。 D 毎日忘れ物をする。	3	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をする人が多い。 D 毎日忘れ物をする。	3.0	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をする人が多い。 D 毎日忘れ物をする。	3.0	朝の会や帰りの会などで、学習道具の持ち帰り、忘れ物がないように指導した。学期末などに持ち帰りを徹底した。学習委員会による忘れ物。	家庭学習の意識を高め、学習道具の持ち帰りの必要性をもたせる。		
			B 70%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。												
			C 50%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。												
			D 毎日学習道具を持ち帰った生徒が50%未満であった。												
生徒指導	全校集会・学年集会や講演会などで集団規律の指導を行う。	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。	集団としての規律（整列・私語・集合時間）やマナーが身に付くように指導した。最終No.3	3.4	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。 B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。 C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。 D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。	3.2	子どもさんは、集団としての規律やマナーが身に付いている。最終No.3	3.6	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。 B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。 C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。 D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。	3.3	全校集会や学校行事、学年集会など、様々な場面で集団規律について指導した。	姿勢や態度が悪く、雰囲気や乱す生徒に対しては、その場から出して別室にて個別指導に当たる。			
		B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。													
		C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。													
		D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。													
②	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	授業時間の確保を図る。	教務	裁量の時間等を活用し、授業時間の確保に努める。	A 授業時間が規定以上に確保できた。							時間割を工夫し、裁量時間を利用し、授業時間の確保に努めた。	来年度も学習指導要領に沿って、適切な授業時間の確保に努める。		
					B 授業時間が規定通りに確保できた。										
					C 授業時間が規定に5%未満、満たなかった。										
					D 授業時間が規定に5%以上、満たなかった。										
		基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	学力向上推進	考査前の質問教室や夏の教室などを設定し、基礎学力の向上を目指す。	A 90%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。								学力向上に向けて、国語、数学、英語の基礎的な内容の習熟に努めた。	学習規律の徹底を図り、基礎的な内容の習熟に努める。	
					B 70%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。										
					C 50%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。										
					D 課題に対して向上した生徒は50%未満である。										
		「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てること」に基づく学習指導の工夫改善（指導主事要請授業）を推進する。	教務	指導主事を要請した授業研究を行い、専門性と指導力を高める。	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に努めた。最終No.5	3.5	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。	2.8	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。	3.2	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。	2.9	ほとんどの教科による指導主事要請の授業研究を実施し、授業力の向上のため最大限努力した。	次年度は全教科による指導主事要請の授業研究を実施し、教師の指導力向上を図りたい。
					B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。										
					C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。										
					D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。										
電子黒板を活用した全職員対象の授業改善校内研修会を開催する。	視覚・情報	全教師が電子黒板を活用した授業の開発が行えるよう研修の場を設ける。	A 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を2回以上実施した。			A 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を2回以上実施した。 B 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を1回実施した。 C 電子黒板を活用した校内研修を実施した。 D 電子黒板を活用した校内研修を実施しなかった。					研究授業等で電子黒板を利用した授業を実施した。	電子黒板の利用についての研修を更に実施する。			
			B 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を1回実施した。												
			C 電子黒板を活用した校内研修を実施した。												
			D 電子黒板を活用した校内研修を実施しなかった。												
習熟の程度、個に応じたきめ細かな学習指導の工夫改善を図る。	少人数指導等推進	習熟度の状況把握に努め、それに応じたクラス編成を行い、適切な学習指導をする。	A 年に3回以上グループ編成やクラス編成を行った。			A 年に3回以上グループ編成やクラス編成を行った。 B 年に2回グループ編成やクラス編成を行った。 C 年に1回グループ編成やクラス編成を行った。 D グループ編成やクラス編成を行うに至らなかった。					教科の単元に応じて、TT授業を実施し、生徒に個に応じた指導を行った。	基礎学力が定着していない生徒が多く、すべての生徒に十分な指導ができるよう、さらに指導の工夫をしていく。			
			B 年に2回グループ編成やクラス編成を行った。												
			C 年に1回グループ編成やクラス編成を行った。												
			D グループ編成やクラス編成を行うに至らなかった。												

基礎・基本

上段・・・達成度

下段・・・重要度

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点			
⑥	学校、生徒、地域の実態等をもとに創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、生徒と教師ともに本物の感動を体験できる教育活動の創造・実践に努める。	体験的な活動・奉仕活動・学校行事等の充実を図るため、総合的な学習の時間を活用した取組を行う。	文化的行事・体育的行事 総合的な学習	単元計画に則り、各学習活動を計画的継続的にを行い、指導の工夫改善に努める。	A 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施し、指導の工夫・改善に努めた。							総合的な学習の時間などで、充実した取組がさらにできるような努める。				
					B 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施した。											
					C 調べ学習などの体験学習を計画的に実施した。											
					D 調べ学習などの体験学習を計画的に実施できなかった。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <体育大会>	A 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習計画の立案と実施を行った。										体育大会では、3学年を中心に、積極的に活動に参加し、行事の成功に努めた。	遅刻、見学がないよう授業からきちんと指導していく。ダンス計画を一学期から見直しをもって行っていく。
					B 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習を行った。											
					C 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、練習を行った。											
					D 生徒が主体的にダンス・組体操の練習を行った。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <文化祭>	A 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習計画の立案と実施を行った。										文化祭では、特に合唱コンクールの取組において各学級で主体的に練習を行い、協力することができた。	充実した文化祭となるように、本年度の取組を継続する。
					B 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習を行った。											
					C 生徒が主体的に合唱の取組を行い、皆が協力して練習を行った。											
					D 生徒が主体的に合唱の取組を行った。											
			保護者の方々と連携したクラスマッチ、百人一首大会等の取組を計画、実施する。	A 保護者の方々と連携した行事を年5回以上行った。										クラスマッチでの豚汁づくりを保護者にお願いし、温かい支援を受けることができた。	次年度も、より一層の充実を図っていく。	
				B 保護者の方々と連携した行事を年4回行った。												
				C 保護者の方々と連携した行事を年3回行った。												
				D 保護者の方々と連携した行事を年2回行った。												
			キャリアアドバイザー活用事業、講師を招聘しての国際理解教育等を通じて生徒に充実した体験をさせる。	A 年間6回以上の体験活動を実施した。										技の達人講演会等、講演会を実施し、生徒が心に残る体験活動を実施することができた。	機会を大切に、より多くの体験活動を実施する。	
				B 年間3回以上の体験活動を実施した。												
				C 年間1回の体験活動を実施した。												
				D 体験活動を実施することができなかった。												
			3UP事業（体力UP・スキルUP・人間力UP）として、部活動の活性化と充実を図るため、指導者を定期的に招聘する。	A 年間5回以上、指導者を招聘して取り組みを実施した。										生徒の技術力向上のために、講師を召還し、研究授業や研修を行うなどして、質の高い指導を行うことができた。	本年度の取組を継続し、来年度も継続していく。	
				B 年間4回、指導者を招聘して取り組みを実施した。												
				C 年間3回、指導者を招聘して取り組みを実施した。												
				D 指導者を招聘して取り組みを実施できなかった。												
⑦	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進する。	学級会活動の時間の充実を図る。	特別活動	A 学級会活動に90%以上の生徒が積極的に参加した。								学級毎に生徒の実態に応じた活動を計画し、積極的に参加させることができた。	時間の確保。特に学校行事に向けた学習を行っていく。			
				B 学級会活動に70%以上の生徒が積極的に参加した。												
				C 学級会活動に50%以上の生徒が積極的に参加した。												
				D 学級会活動に50%未満の生徒が積極的に参加しなかった。												
			生徒会	A 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に80%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。	生徒に生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持たせ、積極的に参加するよう指導した。最終No.6	3.2	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.5	2.8	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.8	生徒会だよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を啓発した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった	「人生一冊プロジェクト」が3年目を終えた。来年の取組については検討しなければならない。				
				B 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に60%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。												
				C 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に40%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。												
				D 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）の呼びかけに応じた生徒が40%未満であった。												
		特別活動	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実に努めた。									職業調べや高校調べ、高校体験入学や出前授業などを計画的に実施した。	進路学習を積極的に行い、進路実現に向けた意識を高めさせる。			
			B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施した。													
			C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。													
			D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。													
		総合的な学習	A 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行い全職員の研修を年1回以上実施した。									集団活動による取組を各学年で設定し、集団としての規律や協働の喜びを実感させることができた。	行事との関連で、まとまる意識を向上させる取組をもっと行っていく。			
			B 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。													
			C 特活において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。													
			D 集団の教育力に着目した取り組みができなかった。													

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点			
⑪	生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育（学校保健・学校安全・食育）を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。 B 若松消防署と連携した避難訓練を年間1回実施した。 C 年1回の避難訓練を実施した。 D 避難訓練を実施しなかった。							防災訓練や不審者対応の避難訓練を実施し、啓発に努めた。				
		救急救命講習を開催する。	保健指導	救急救命講習を開催する。	A 職員・生徒向けの救急救命講習会を年間2回実施した。 B 生徒向けの救急救命講習会を年間1回実施した。 C 救急救命に関する学習を資料を使って行った。 D 救急救命講習会を実施できなかった。							2学年を対象に講師を招いての救急救命講習会を開催することができた。	次年度も当該学年を対象に継続して取り組んでいく。			
		熱中症予防、性に関する指導の充実を図る。	保健指導	各学年の実態に応じた「性に関する指導」と「熱中症予防講演会」を実施する。	A 全学年で実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D アンケートのみ実施した。							全学年で「性に関する指導」を実施し、1学年で、講師を招いての「熱中症に関する講話」を開催することができた。	次年度も当該学年を対象に継続して取り組んでいく。			
		若松署と連携した「薬物乱用防止教室」「青少年を暴力団から守る教室」等を実施する。	生徒指導	「薬物等乱用防止教室」と「暴追教室」「インターネットによるいじめ防止教室」を実施する。	A 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴追教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施し、事後指導を行う。 B 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴追教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施する。 C 年間に1回はどれかの教室を実施する。 D どれも実施できなかった。							講師を招いて「青少年を暴力団から守る教育」を実施し、全学年を対象に「ネットによる誹謗中傷・いじめ等防止講演会」を開催した。	来年度は、規範意識の育成として、「性の逸脱行動防止」講演会を全校生徒と保護者を対象にして実施する。			
		食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食・食育推進	食育便りを発行することにより、「食」の大切さを意識づける。	A 年3回以上発行した。									食育だよりを毎月配布し、食の大切さを理解させることができた。	各教室に食育だよりを掲示し、さらに食の大切さを意識させる。	
					B 年2回発行した。											
					C 年1回発行した。											
					D 発行しなかった。											
			給食・委員会	牛乳パックの減量化と残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。										厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	各クラスの厚生委員にも積極的に配膳室にて活動をさせる。
					B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。 C どちらかは概ね減量化された。 D どちらも減量化に至らなかった。											
		給食・委員会	給食で使用されている食材の情報を放送で実施する。	A 毎日、放送により食材情報の提供を実施した。										厚生委員会を中心に、当日の給食の食材情報を放送により広報することができた。	その日の給食の片付け方も含めて、放送させていく。	
				B 週2回以上、放送により食材情報の提供を実施した。 C 週1回、放送により食材情報の提供を実施した。 D 食材情報の提供を実施することができなかった。												
		保健体育科	体力の向上を図るため、保健体育科の選択授業でスポーツテストを実施する。	A 全学年でスポーツテストを実施した。										全学年でスポーツテストを実施し、生徒は活発に参加することができた。	スポーツテストの結果を参考にし、種目ごとに準備内容を工夫し、体力の向上を図る。	
				B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D スポーツテストを実施することができなかった。												
⑫	学校のよさや特色を積極的な情報発信と学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの一層の充実を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開した。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取り組んでいく。			
					B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。 C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。 D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。											
					A 学校運営説明会・報告会を実施し、結果を公表した。 B 学校運営説明会・報告会を実施した。 C 学校運営説明会を実施した。 D 学校運営説明会・報告会を実施しなかった。										計画通り、学校運営説明会・報告会を実施した。	次年度も継続して取り組んでいく。
					A 学校関係者評価委員会を年2回実施し、その評価を公表した。 B 学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価を公表した。 C 学校関係者評価委員会を年1回実施した。 D 学校関係者評価委員会を実施しなかった。										計画通り、学校関係者評価委員会を年間2回実施した。	次年度も継続して取り組んでいく。
		各教科の授業公開を推進する。	教務	常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	A 毎月1回以上実施した。									年間を通して、常時学校開放を行い、ほとんどの教科による研究授業を公開した。	次年度も常時、学校を開放し、研究授業を積極的にやっていく。	
					B 年間6回以上実施した。 C 年間3回以上実施した。 D 年間2回以下だった。											
		学校のホームページの一層の充実を図る。	視聴覚・情報	随時更新する。	A 週1回更新した。 B 月に2回更新した。 C 月に1回更新した。 D 更新しなかった。									ICTサポーターや情報教育担当を中心に、随時学校HPの更新をおこなった。	来年度はさらに更新回数を増やしていく。	
校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報提供に努める。	各職員	校長通信・ホームページ・学年通信・学級通信を通して学校の情報を発信する。	A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 C 月に1回以上、保護者に配布した。 D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。									校長通信（ジャガイモ）や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	校長通信・学年通信・学級通信を定期的に発行し、広く保護者への情報提供を行った。			

後期保護者アンケートの評価は、上段は達成度下段は重要度を表す。